

認知症進行予防に向けたレクの導入

～レクリエーションに於ける新たな取り組み～

介護老人保健施設 アゼリア

介護福祉士 小泉 保



【はじめに】



認知症進行による認知機能の低下やADLの低下による介護量の増大を予防していく為、体を動かす運動と脳を使うことを同時に行う、新たなレクリエーションを導入した取組みを実施した。



【 実施期間 】

- 平成27年1月～3月末



【 実施時間 】

- 午前中のレクリエーションにて実施
- 毎週3回の約10～15分間程度に実施



【実施対象者】



男性1名  ・ 女性5名 

記憶力の低下など、認知全般に支障を認める6名を選定。

【 実施内容 】

- ①車椅子、椅子に座った状態で、体に負担の少ない運動をしながらホワイトボードに書いた簡単な足し算や引き算等の計算を行う。



【 実施の様子① 】



【 実施内容 】



- ②色の漢字と文字と異なる色の漢字をホワイトボードに書き、それを利用者に書かれている文字を声に出して読んで頂く。
- ③取り組み開始前後のHDS-Rを測定。



【 実施の様子② 】





【実施結果・考察】



T. O様（82歳・男性）

HDS-R = 17点→24点

設問7（遅延再生）が集中して向上し。

設問9（言語流ちょう性）が2点向上。

K. Y様（85歳・女性）

HDS-R = 9点→6点

3点の減少であったが進行症状は認められていない。





【実施結果・考察】



Y. M様（91歳・女性）
HDS-R = 16点 → 19点
設問2, 5, 7,
（時間、場所の見当識、遅延再生）が
各々1点ずつ向上。

Y. T様（99歳・女性）
HDS-R = 11点 → 11点
毎回集中して参加されていたが、
点数に変化は認められなかった。



【実施結果・考察】



T. U様（94歳・女性）

HDS-R = 6点→8点

設問8（物品記銘）が2点向上。

M. T様（82歳・女性）

HDS-R = 18点→21点

設問7（遅延再生）が集中して向上。



【まとめ】



利用者への刺激

生活の活性化

新たなレクの導入

変化による刺激

HDS-R維持向上

ご清聴ありがとうございました

